

# やすらぎだより

7  
月  
号

陽気で緑にあふれた生活 それやすらぎ園です

コラム第121号

## 「新たなレール」

施設長 植田 誠



昨年7月から始めた「低所得高齢者等住まい・生活支援モデル事業」が一年を経過した。

コラム第111号に私はこの事業の展望としてこう記した。「無いものや足りないものを悲観するのではなく、有るものを見つけながら着実に」と。‘住まいの確保と生活支援との連携協働’、うたい文句は高らかに発信したが何事も開拓することは容易ではない。レールの無いところから目指すレールを敷くには、「有るものを見つけながら」では中々前には動かない。

身近で頑張っている担当者3人の顔色から、苦悩と安堵が日々うかがい知れる。

この間目指してきたことの一つは「奈良県居住支援協議会」の立ち上げだ。多くの府県では設置済であるこのネットワークを奈良で実現させることが、レールの基礎であると考えた。

奈良県住宅課や天理市との協働により、この秋には立ち上がる目途がついた。しかし、その中身はあくまで住宅施策が中心であり公益性も乏しい。そこで改めて、やすらぎ会と天理市が独自に展開することとした。

まずは市内の全不動産業者を訪問し関係を築く。これまで実施してきた「高齢者世帯への住まいの調査」に基づく実態を把握し、入手した空き家情報等も参考に、法人が主体となりその受け皿を用意する。

そして、住宅確保を必要とする方の住まいと生活、両面の支援を行っていく。

現在のところ、訪問した不動産業者は一様に好意的である。住宅事情を知悉しているプロからの声は、これまでの我々には貴重だ。

「社会福祉法人さんとは、関わりがほとんどありませんでしたね」

開拓精神である‘モデル’としての醍醐味を味わっている余裕はない。残り20ヶ月、3人とそして法人が積み重ねていく努力の先に、新たなレールは敷かれるはずだ。



### 社会福祉法人やすらぎ会 実施事業

- 特別養護老人ホーム やすらぎ園
- 在宅サービス事業所
- 在宅介護支援事業所
- 訪問介護事業
- 訪問入浴介護事業
- 短期入所生活介護事業
- 在宅介護支援センター
- 天理市東部地域包括支援センター
- ケアハウス やすらぎ
- 介護予防関連事業
- グループホーム むつみあい